

ともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラム

トモス助成2024年度 インパクトレポート

2024年12月

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
ファンドレイジング委員会

 公益財団法人
ボーイスカウト日本連盟
SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

 
ともに進もう
助成プログラム
(ひとり親家庭等応援)



※写真はスカウト活動のイメージです

トモスス助成10年を迎えて



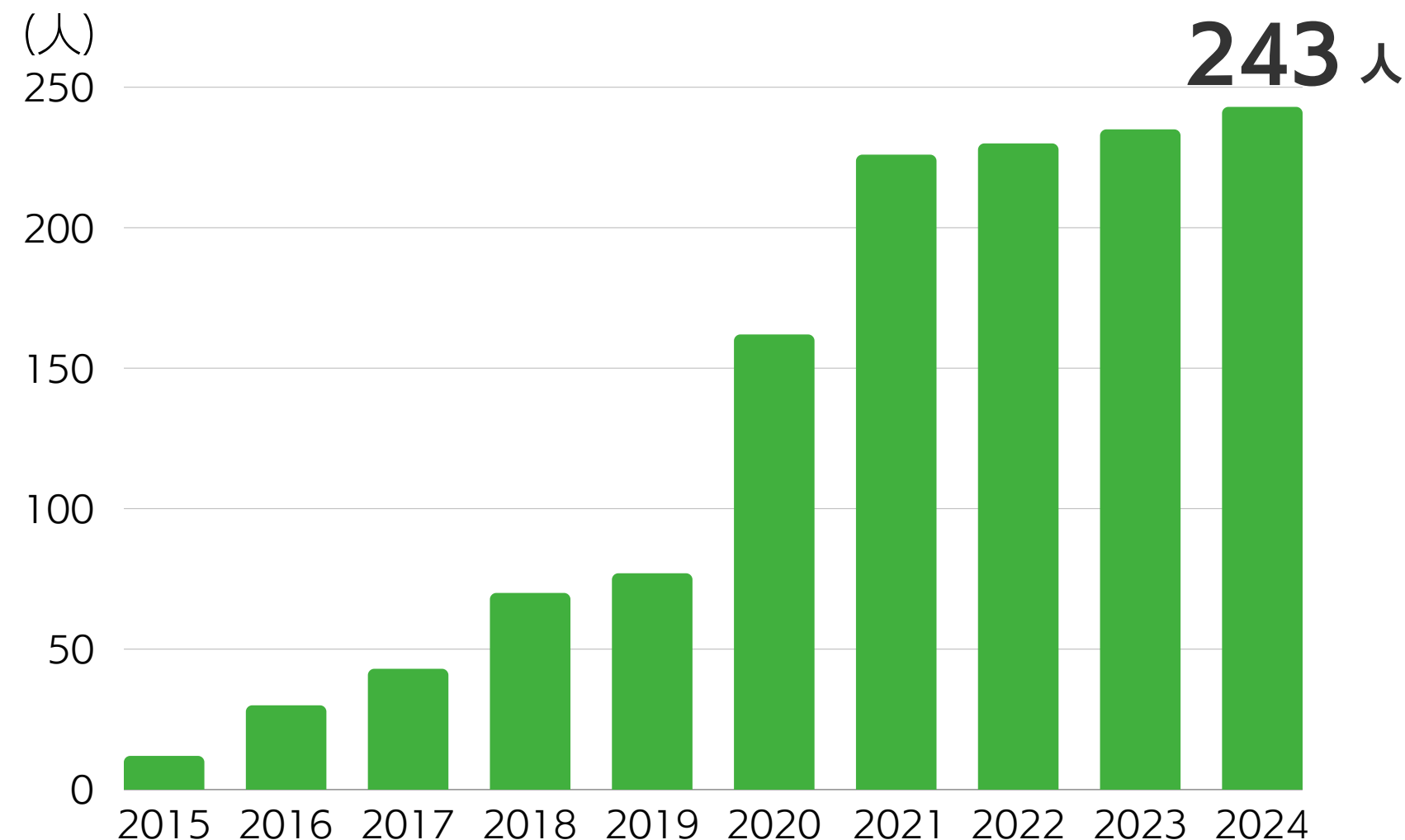
ボーイスカウト日本連盟は、ひとり親家庭等の子どもたちにスカウト活動の参加支援金を届ける「トモスス助成」を、2015年から実施してきました。2024年度には10年目を迎え、これまでにのべ1,311人の子どもたちに活動支援金を助成しました。

ひとり親家庭等は、子どもの体験活動の機会に関する「体験格差」の影響を大きく受けることが知られています。その実態を把握し、今後の支援施策に活かすために、助成対象者（トモスス利用者）にアンケートにご協力いただきました。本レポートでは、アンケートの結果と、そこから見えてきたことをまとめました。

2015年度から2024年度の10年間で

のべ**1,311**人

の子どもたちに、活動支援金を助成しました。

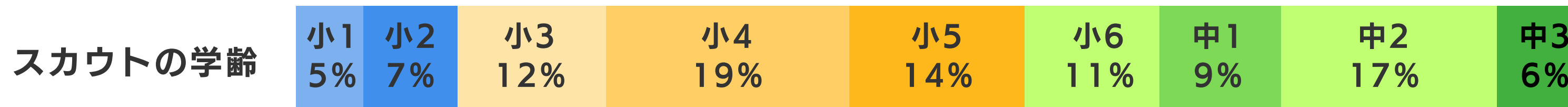


調査の概要



調査対象	2024年度のトモスス利用家庭（全190家庭）
調査期間	2024年10月2日～10月15日（10月末日までの追加回答も含めて分析）
調査方法	電子メールでWEBアンケートを協力依頼
回答数	95件（回収率50%）

回答者の属性

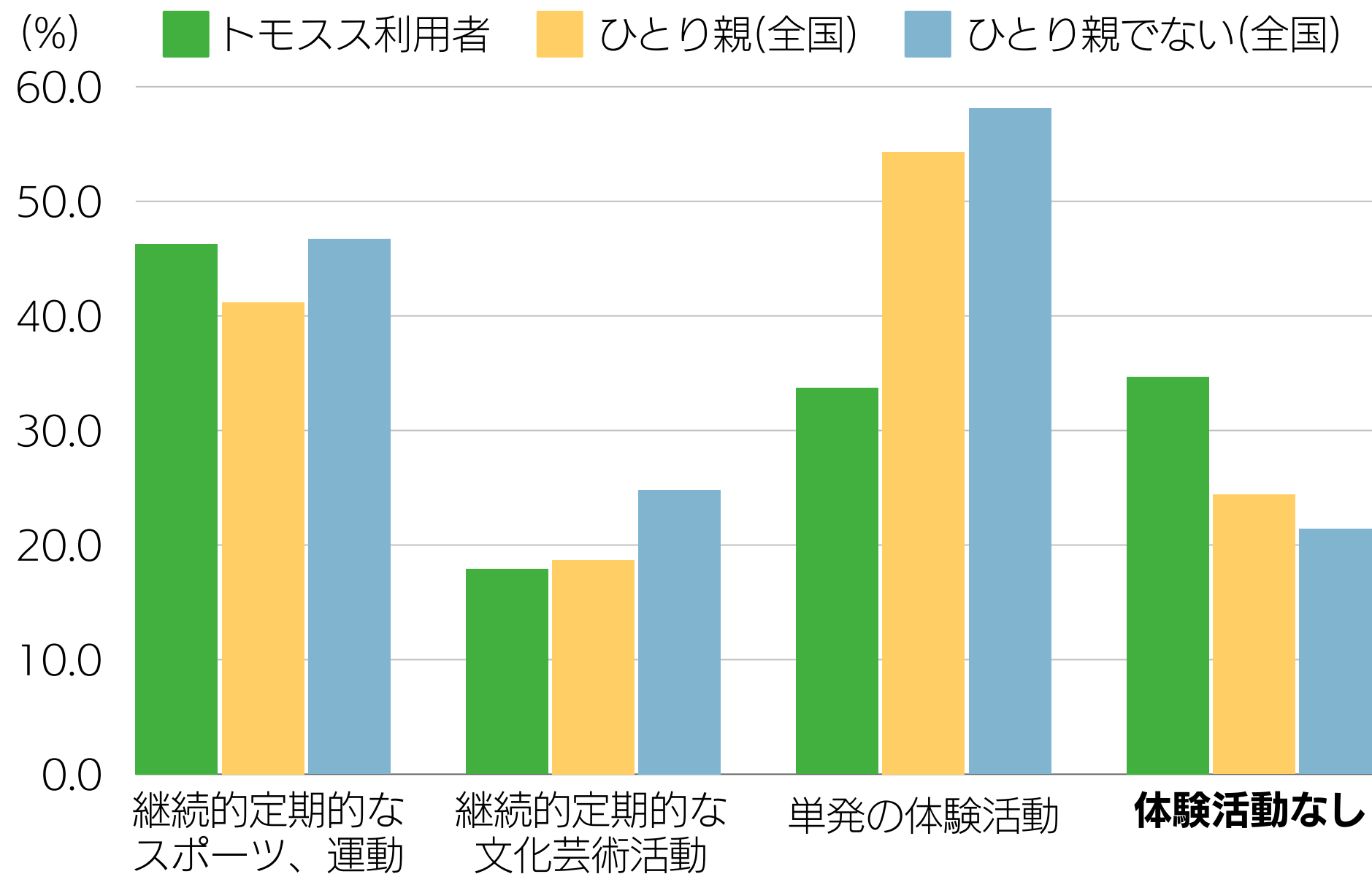


ひとり親家庭の体験格差① 学校外の体験活動



Q. 学校外で参加している体験活動は？

(トモスス利用者はスカウト活動を除いて回答)



Q. 学校外の体験活動にかかる年間支出額は？

(スカウト活動を除く)



トモスス利用者の3人に1人が「体験活動なし」と答えた。全国調査と比べると、とくに**単発の体験活動**への参加割合が低かった。

また、学校外の体験活動にかかる**年間支出額が1万円以下**という家庭が半分であった。

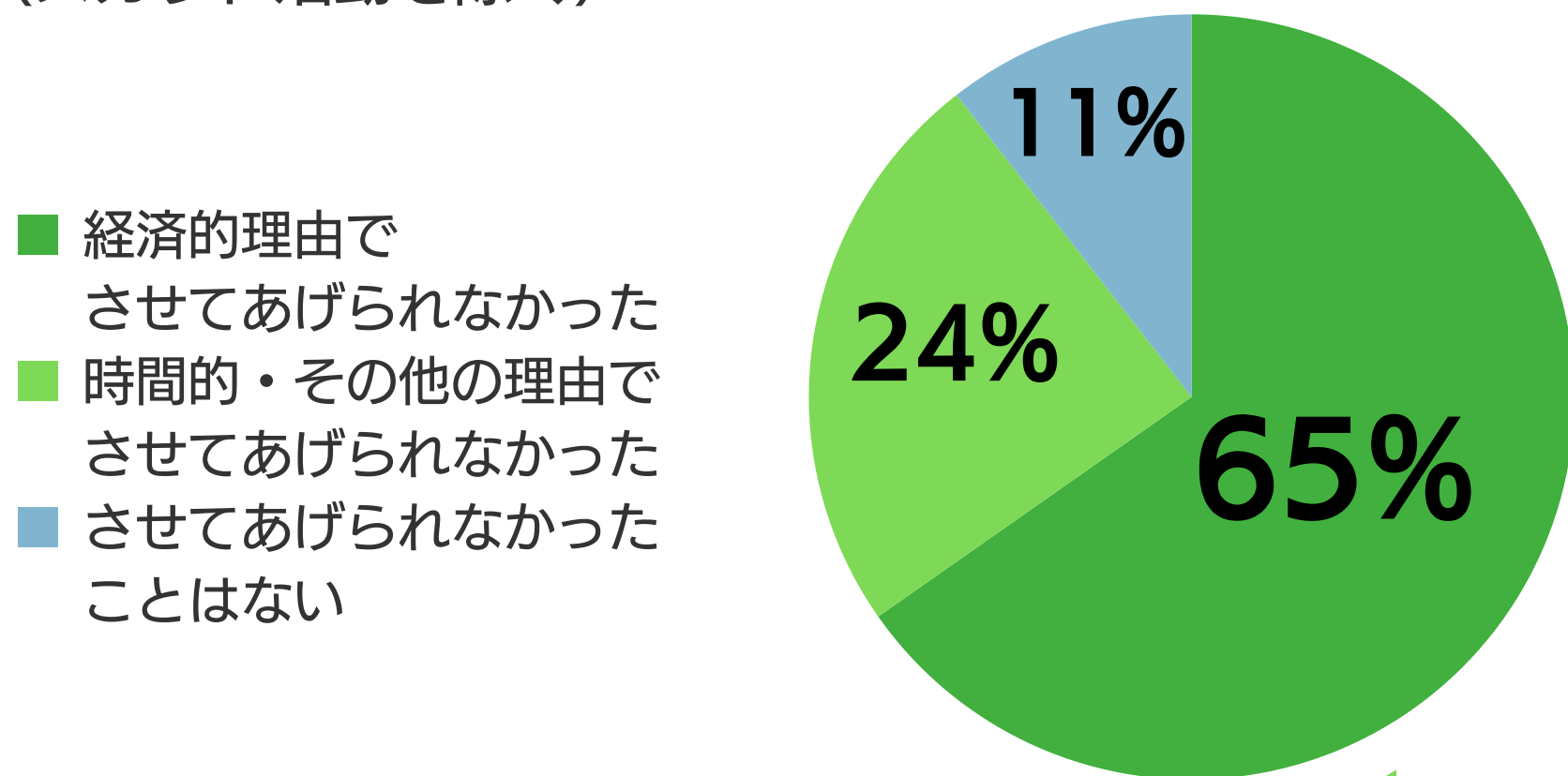
トモスス利用者には、スカウト活動が唯一の体験活動という家庭が多いことが分かる。

ひとり親家庭の体験格差② 諦めた理由



Q. 子どもがやってみたいと思う体験を
させてあげられなかった経験はありますか？

(スカウト活動を除く)



- 経済的理由で
させてあげられなかった
- 時間的・その他の理由で
させてあげられなかった
- させてあげられなかった
ことはない

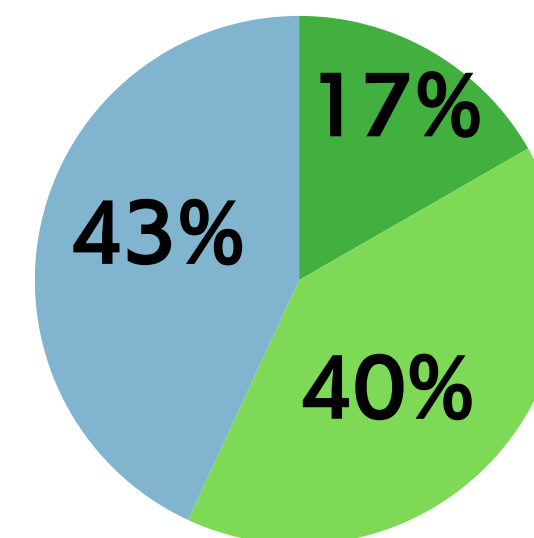
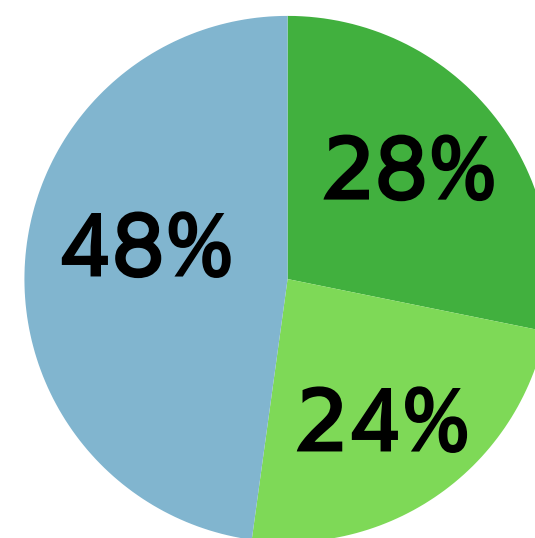
トモスス利用者の **89%** が
「させてあげられなかったことがある」と回答

(参考) 別の全国調査では……

Q. 子どもがやってみたいと思う体験を
させてあげられなかった経験はありますか？

ひとり親家庭[全国]

世帯年収300万円
以上の家庭[全国]



チャンス・フォー・チルドレン(2023)子どもの「体験格差」実態調査最終報告書

経済的理由等で、体験活動を諦めることの多い
ひとり親家庭が、ボーイスカウトを選択している。

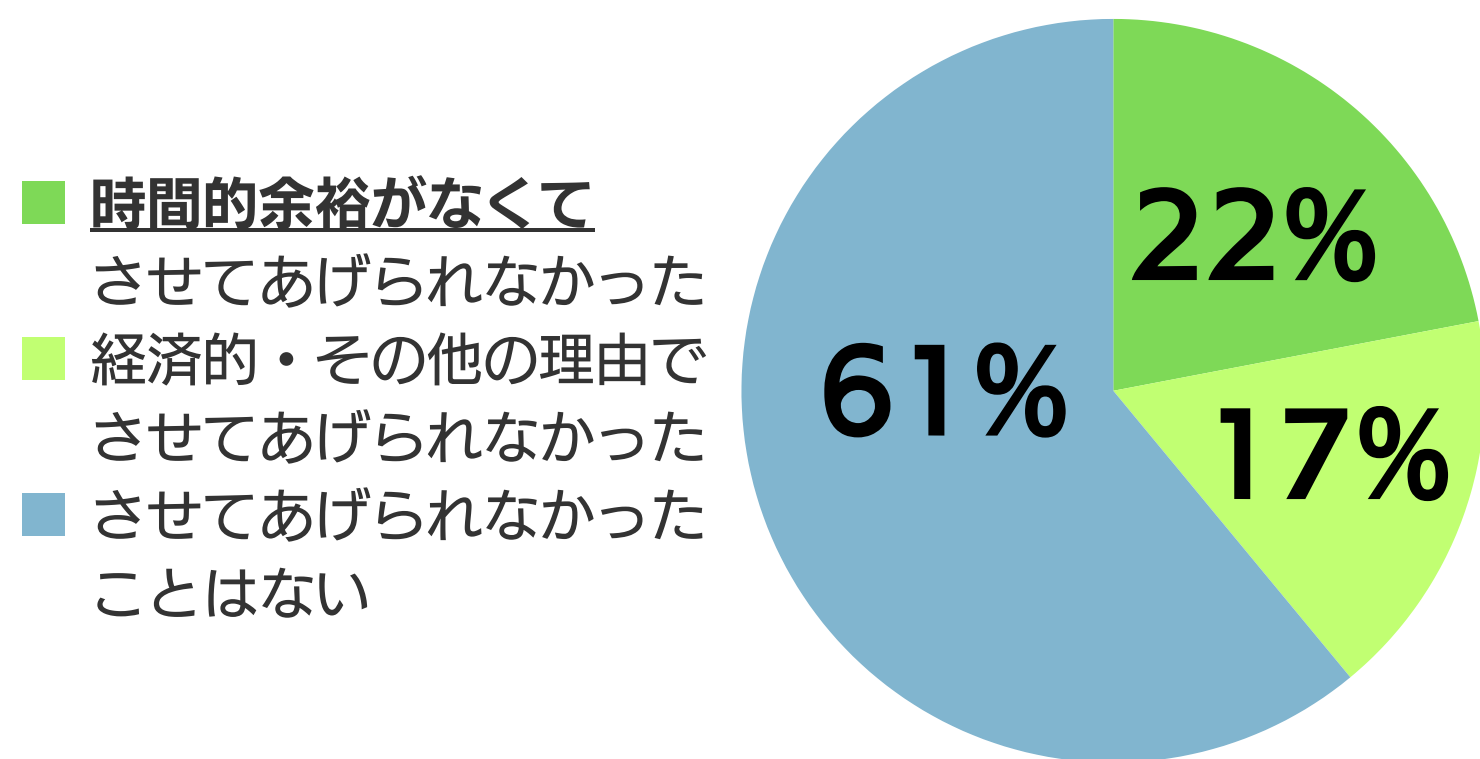
ひとり親家庭の体験格差③ スカウト活動



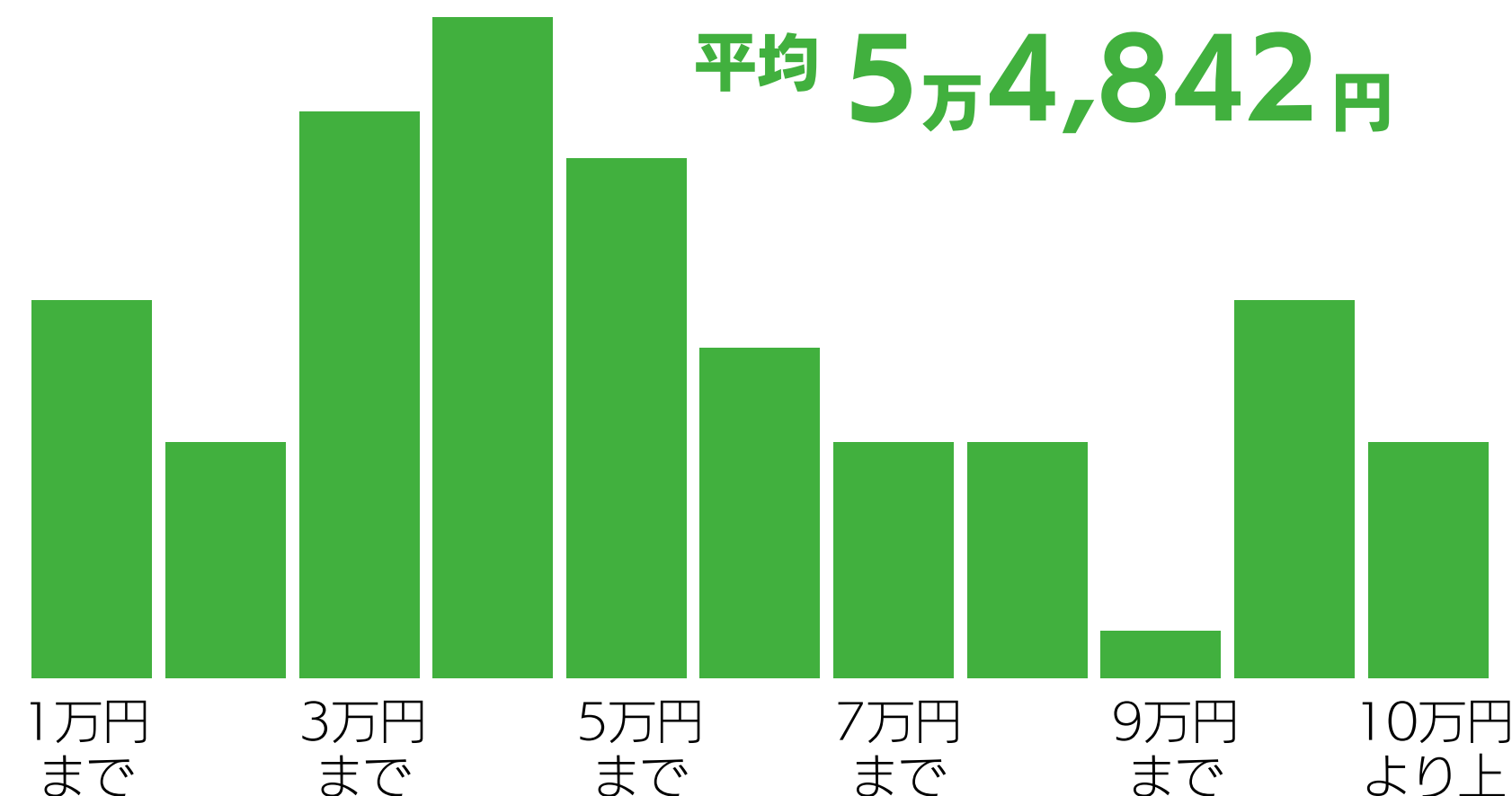
スカウト活動のなかでも、39%が何らかの体験をさせてあげられなかったことがあると答えた。その理由は「保護者の時間的余裕がない」が多く、送迎などが参加の壁となっている事例があった。

スカウト活動にかかる年間支出額は平均5.5万円だったが、その分布はばらつきが大きい。**夏キャンプなど追加費用の発生する行事は参加できない**、という声も寄せられた。

Q. スカウト活動のなかで、子どもがやってみたいと思う体験を、させてあげられなかった経験はありますか？



Q. スカウト活動にかかる年間支出額は？



ひとり親の悩み① 子どもについての悩み

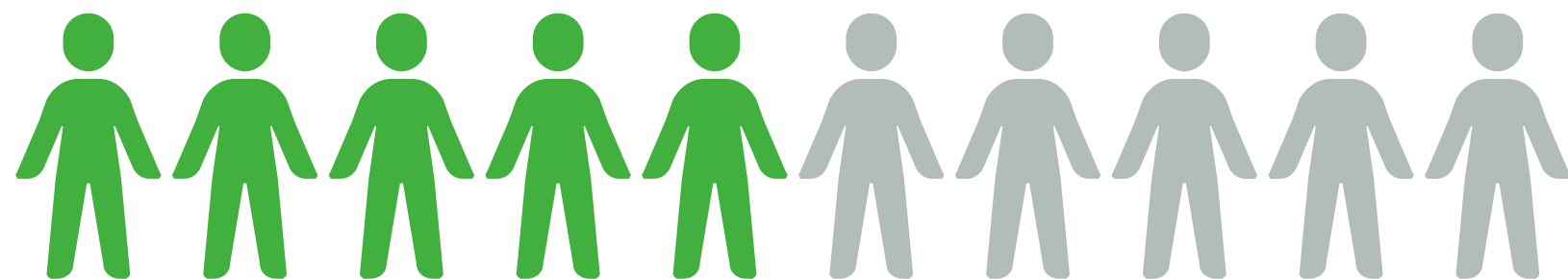


子どもの「**教育・進学**」「**しつけ**」について悩んでいる割合が高い。また8人に1人は子どもの「**障害**」を挙げた。これらの点は、スカウト活動に期待するところもあると考えられる。

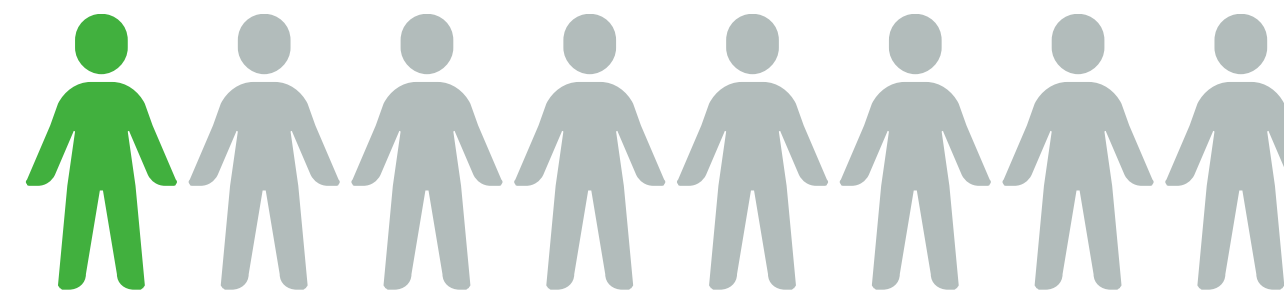
3人に1人の割合で子どもの「**食事・栄養**」に悩んでいる家庭もあり、厳しい経済的背景が見える。

Q. 子どもについての悩みは？ (複数回答可)

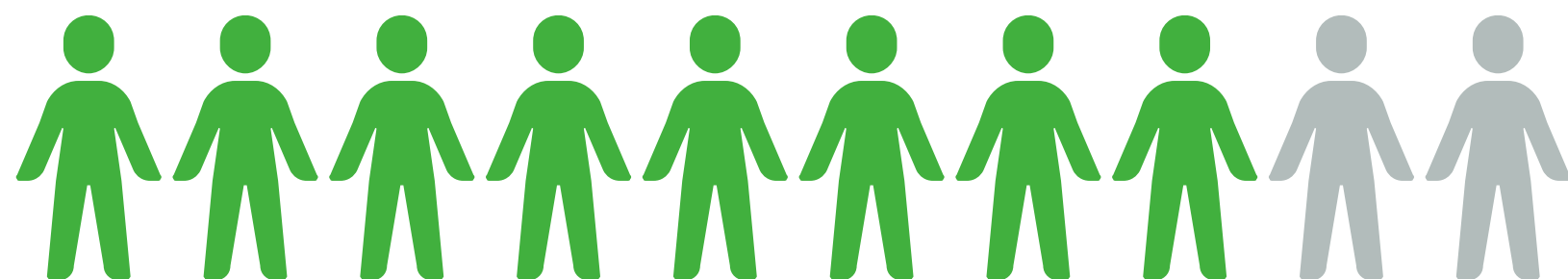
しつけ 52%



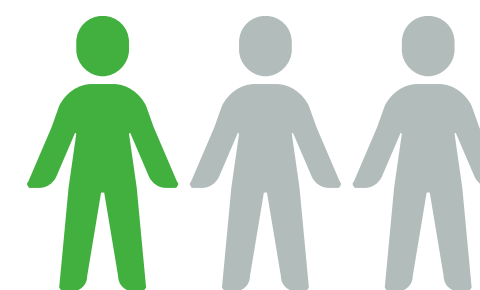
障害 12% (8人に1人)



教育・進学 81%



食事・栄養 32% (3人に1人)



ひとり親の悩み② 相談相手について



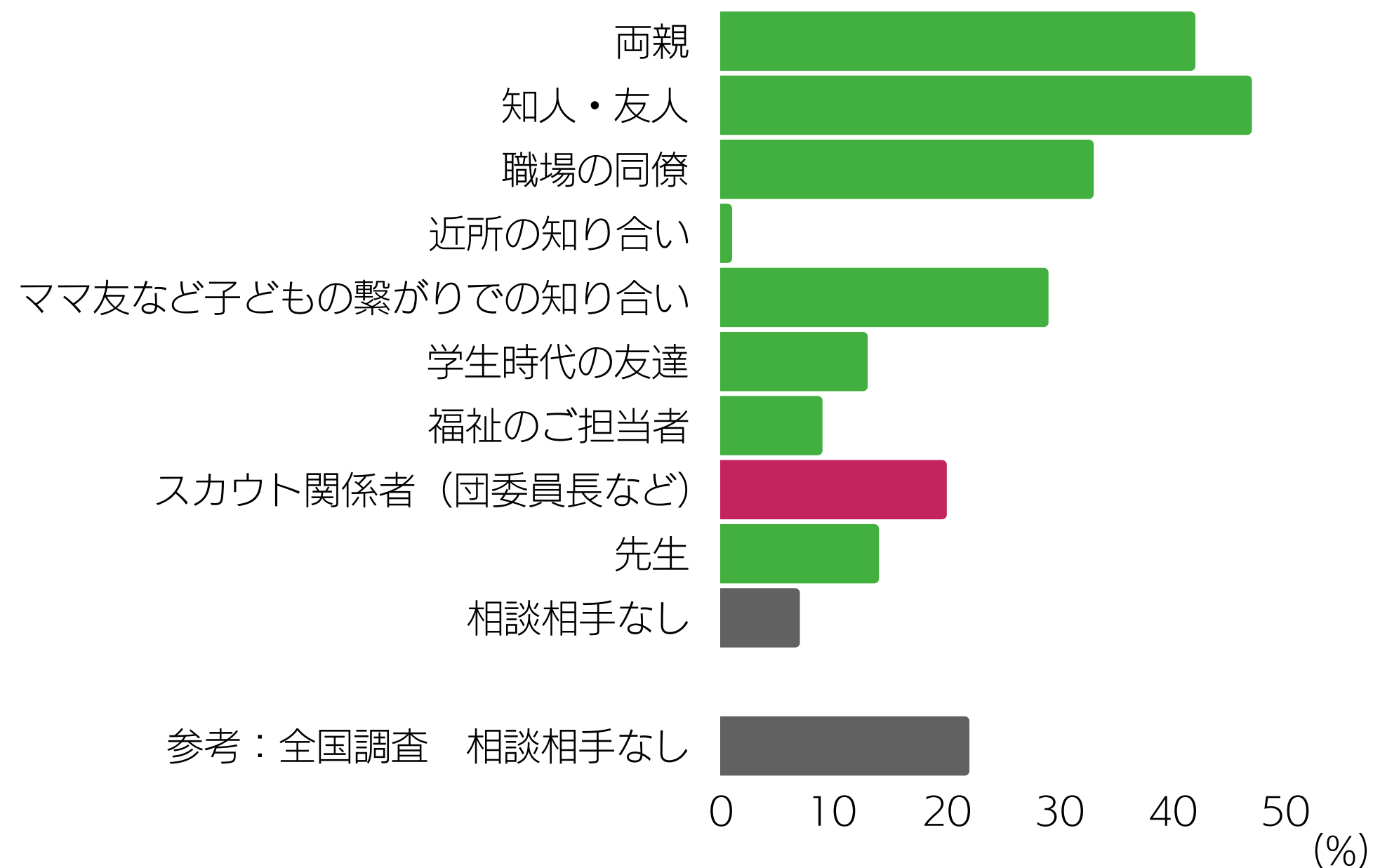
ひとり親の普段の相談相手について聞いたところ、5人に1人の割合で「**スカウト関係者（団委員長など）**」を挙げた。

厚生労働省による全国調査では、母子家庭の22%（父子家庭では45%）のひとり親が「相談相手なし」であった。**トモスス利用家庭を対象とした今回の調査では、「相談相手なし」という方は7%に留まった。**

子どもがスカウト活動に参加することで、スカウト関係者やママ友等の相談相手が増え、**ひとり親の社会的つながりが広がることにもなっている**と考えられる。

Q. あなたの普段の相談相手は？

(複数回答可)



スカウト活動への期待① 知ったきっかけ



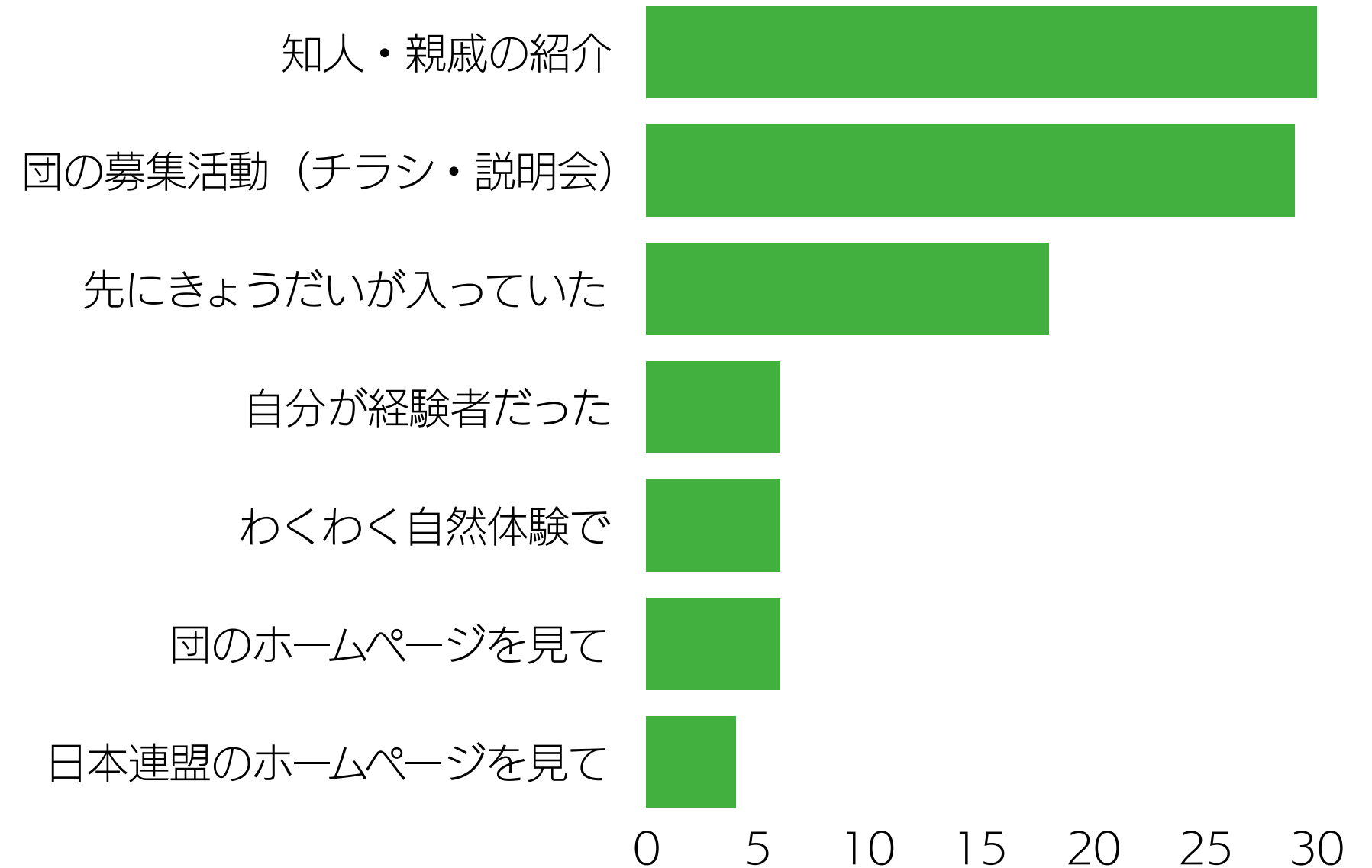
スカウト活動を知ったきっかけは、「知人・親戚の紹介」と「団の募集活動（チラシ・説明会）」の回答が多数だった。

「知人・親戚の紹介」は、もともと選択肢に含まれていないが、自由記入欄にわざわざ記入した方が3分の1に上った回答であることは注目される。

スマホやSNSで情報があふれる今日だからこそ、**身近な人や関係者の直接的な関わりが、保護者の重要な情報源になっている**ことがうかがえる。

Q. スカウト活動を知ったきっかけは？

n=95（複数回答可）



スカウト活動への期待② 期待すること



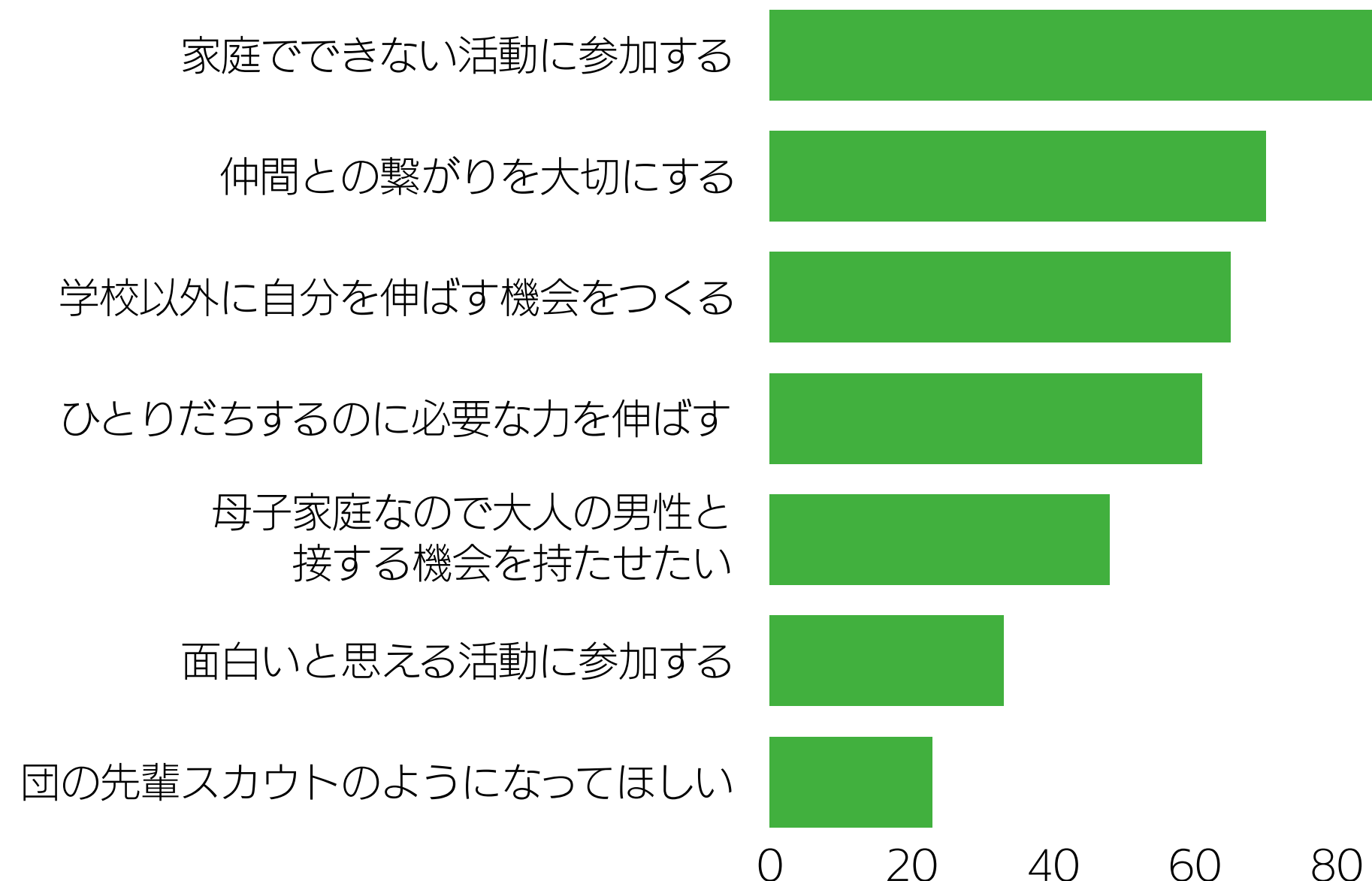
スカウト活動に期待していることは、「家庭でできない活動」「仲間との繋がり」「自分を伸ばす機会」を期待する回答が多かった。

ボーイスカウトのプログラム内容や、グループでの活動すること、そして子どもの成長にプラスになることへのニーズが高いと考えられる。

またひとり親ならではのニーズとして、「大人の男性と接する機会」を期待するという回答が半分以上あった点も注目される。

Q. スカウト活動に期待していることは？

n=95 (複数回答可)

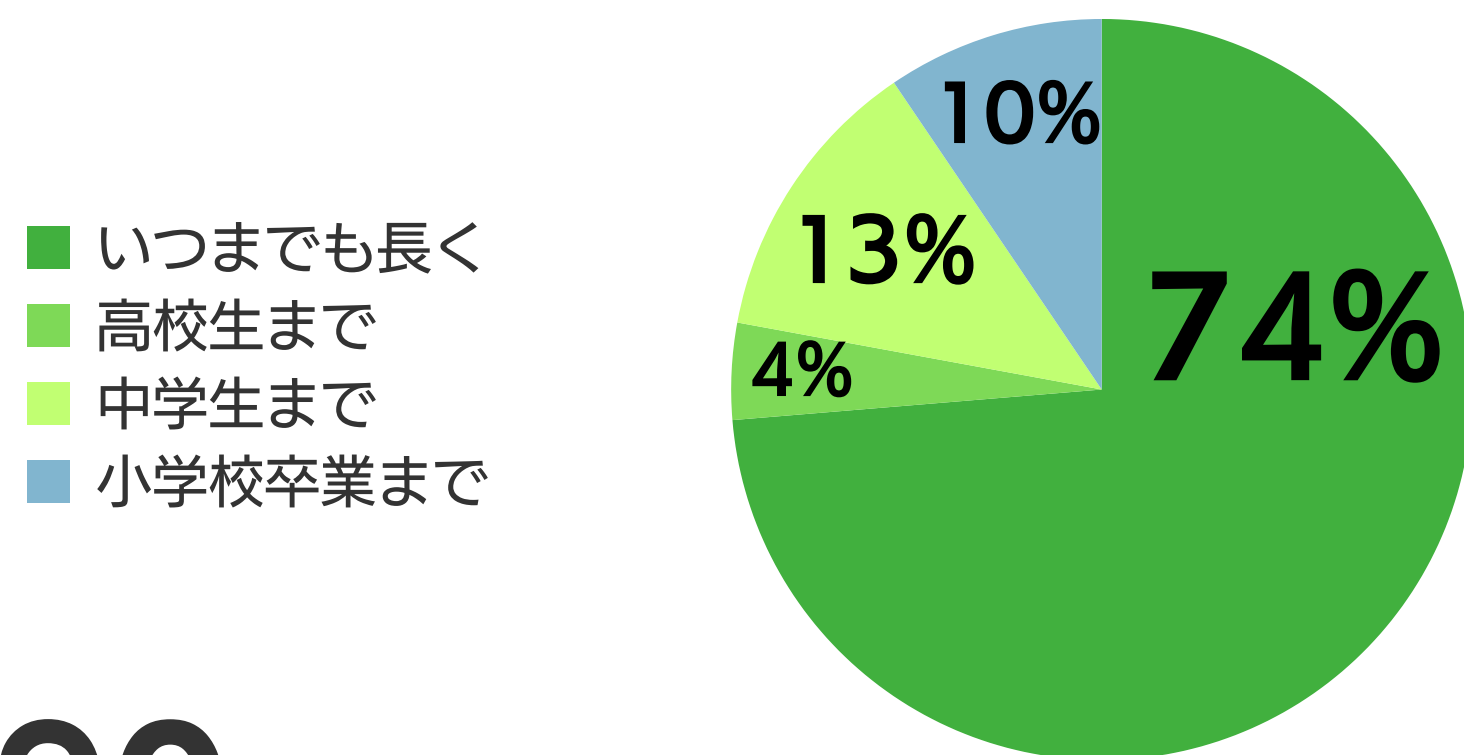


スカウト活動への期待③ 期待の度合い



7割以上が「スカウト活動をいつまでも続けてほしい」と答えた。「高校生まで」「中学生まで」を含めると、9割が長く続けてほしいと願っている。

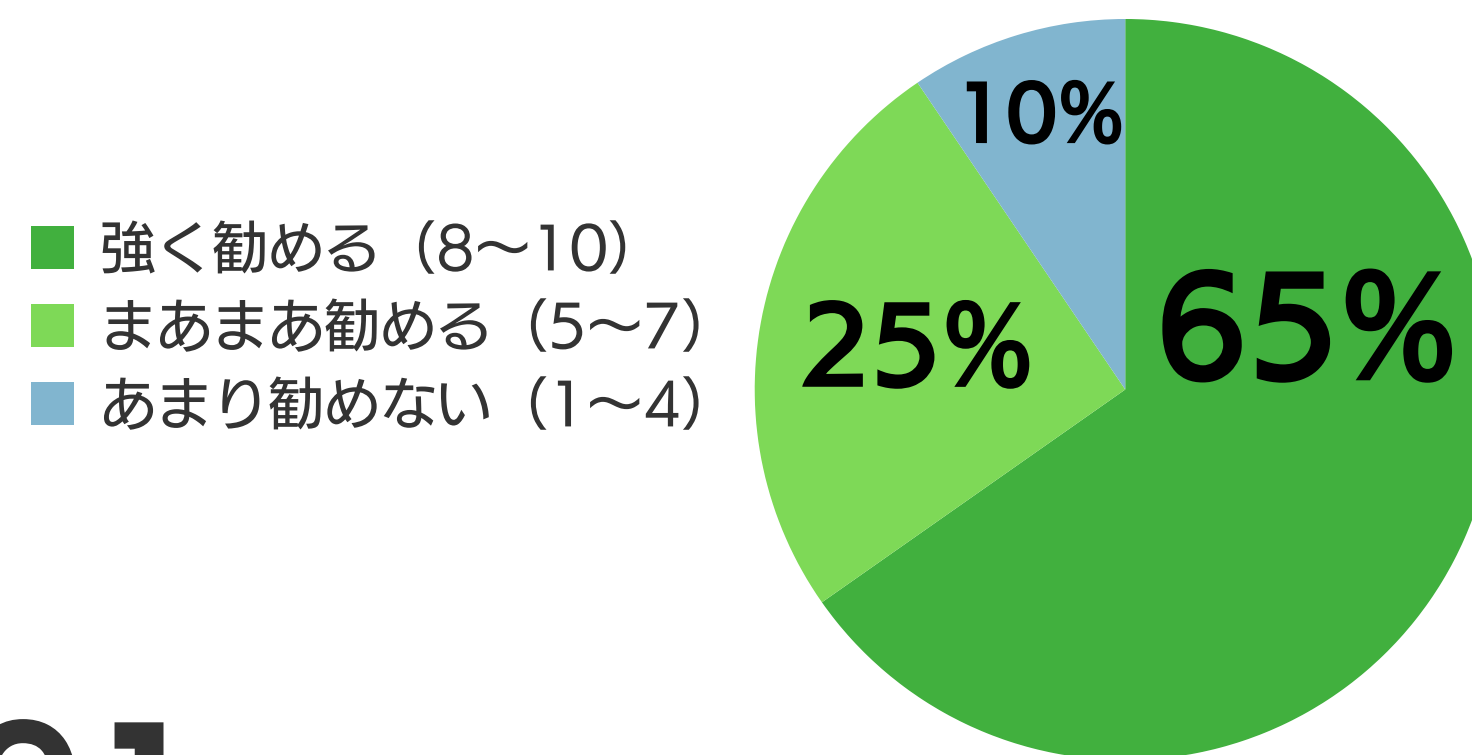
Q. スカウト活動をいつまで続けてほしい？



90%が
中学生以上まで、長く続けてほしいと回答

トモスス利用者の9割が「友人や知り合いにスカウト活動を勧めたい」と答えた。とくに「強く勧める(8~10)」と答えたのは3分の2だった

Q. スカウト活動を知り合いに勧める度合いは？



91%が
スカウト活動を周りに勧めたいと回答

スカウト活動への期待④ 経験してほしいこと

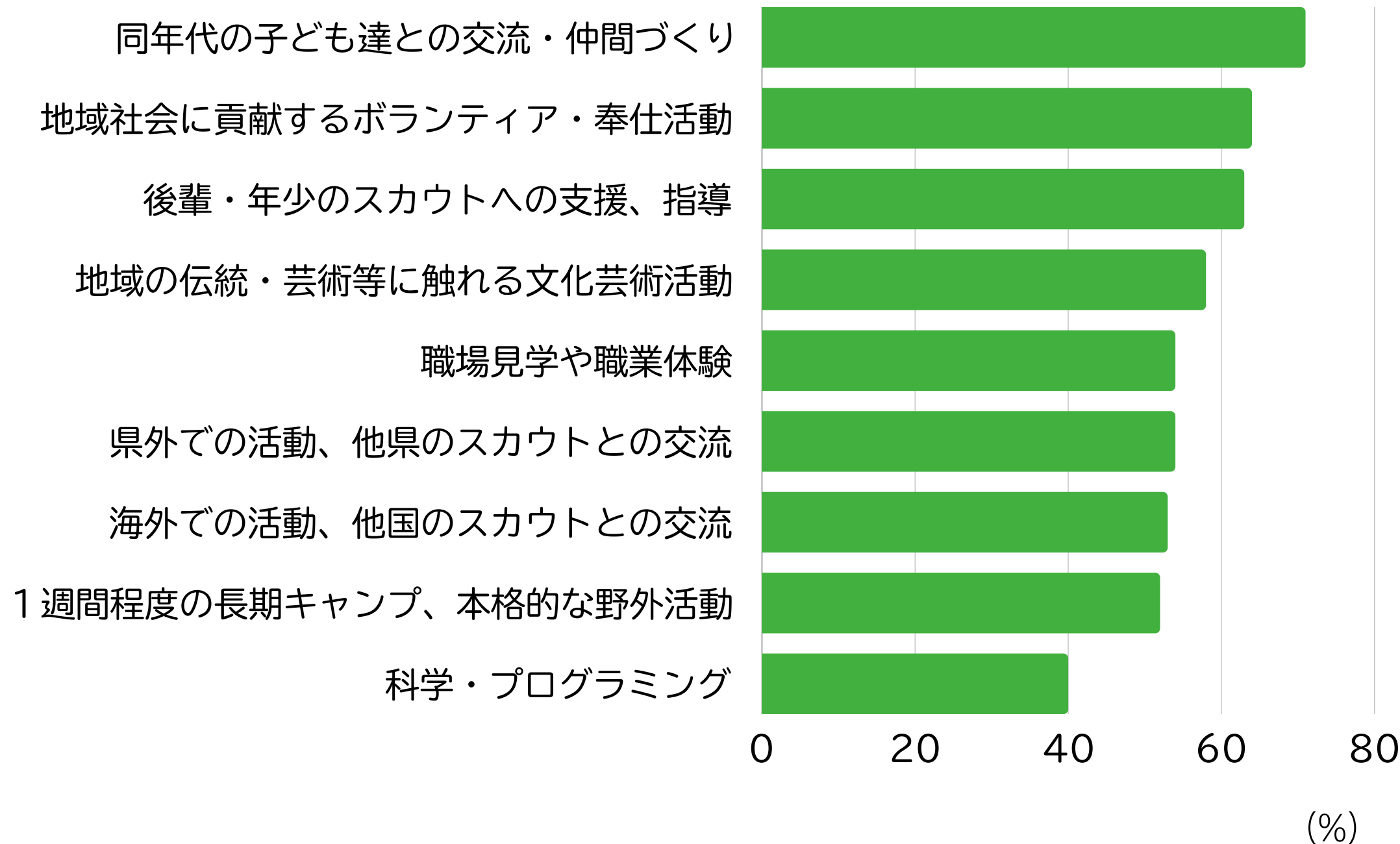


今後、スカウト活動で経験してほしいこと第1位は、「同年代の子ども達との交流・仲間づくり」だった。活動で何をするか以上に、仲間と一緒にすることが期待されている。

また第2位は「地域社会に貢献するボランティア・奉仕活動」、次いで「後輩・年少スカウトへの支援、指導」と続いた。スカウト活動を通して、**人の役に立つ喜びを経験してほしい**と願う保護者が多いと思われる。

Q. 今後、スカウト活動で経験してほしいことは？

n=95 (複数回答可)



ひとり親の皆さんからお寄せいただいた 子ども们的スカウト活動エピソード

トモスス利用者のエピソード



家庭では出来ない体験がうれしい！

キャンプがすごく楽しいみたいで、帰ってきてから「**あんなことした、こんなことした**」とニコニコで報告してくれます(^ ^)

ものづくりや、キャンプで**日頃体験できないことを嬉しそうに話してくれます**

川遊びでの生き物観察が大好き。友達と一緒にできるのを喜んでいる。しかけなど自分で手づくりしている。**自分で考えて動くことが増えてきた。**

キャンプや野外料理など、竹を使いパンを焼いたり、メスティンで料理をしたり、班のみんなで協力しながら謎解きしたり、**普段の生活ではできない経験が楽しい**ようです。

夏の長期キャンプ等や登山は**私1人では経験させられないので頼もしいです**

キャンプや魚釣りなど**今まで経験したことないことができ**てとても喜んでいます。

トモスス利用者のエピソード



仲間がいるから楽しい！

年上の子どもたち、年下の子どもたちの関わりが出来ていて一緒に協力し合いながら楽しめているので良かったと思う。折り紙を皆んなでしたり、りんご狩りや皮剥きをしたり家でなかなかしてあげられないので有り難い体験です。

家では私にべったりでひとときも離れない子が、活動中は私から離れて友達や他の保護者やリーダーと夢中で遊んでいること。また団の先輩スカウトが積極的に前へ出て発言しているのを見ているので、学校などでも色々なことに立候補するのが当然だと思っているようです。

他学年メンバーとの交流も楽しいようです。スカウトの仲間は安心するようで、学校の交友関係でストレスがあってもスカウトにはノーストレスで参加しています。

思春期で難しい時期に苦楽を共にできる仲間がいてホッとします。

トモスス利用者のエピソード



家では見せない、頼もしい姿

夏のキャンプで登山をして登り切った事が大きな自信になったようです。また組長になったことで、後輩たちのこと
でいろいろ苦労しているようです。

家では末っ子で甘えん坊なのですが、年長として頑張っている話を聞くと、とても頼もしく感じ、家出来ない良い経験
をさせていただいていると感じます。

毎朝、学校は行きたく無いが、スカウト活動を待ち望んで
いるらしく、**早く週末にならないかな**と言っています。

あまり集団活動が得意ではなかったと思いますが、自分
から**「僕も組長やってみたい！」**と言い出した時、驚くと
ともに やって良かったと思えました。

いつも活動後に迎えに行くと、ニコニコ帰って来て、楽し
かった！と報告してくれます。家では甘えてばかりです
が、舎営中にはすすんでお手伝いなどしているらしく、
活動を通じて、社会性なども身に付けつつあると感じてい
ます。**目を輝かせて、年上の先輩スカウトのお話を聞いて**
いる姿が印象に残っております。

トモスス利用者のエピソード



親の言うことは聞かない年ごろですが、

普段の生活では部活もすぐ辞め、家でゴロゴロゲームをしてばかりです。何を誘ってもやる気がなく、すぐ泣き言を言って挑戦することがあまりない中、ボーイスカウトの活動は休まずに参加しています。

40km夜間ハイクや滝登りなどハードな活動が多いのですが、隊長や副長に後押しされ挑戦し、「もう死にそうやった」と言いながらも、なんだかんだ達成出来て嬉しいようです。活動中は、いつもすごく楽しそうだと聞いています。

なかなか私のいう事は聞かない年頃ですが、ボーイスカウトの皆さんのいう事は素直に聞いていて、本当に助かっています。

トモスス利用者のエピソード



男性にも心を開くようになりました

夫の暴力（DV）で避難、離婚したため、男性や男の子が苦手だった我が子ですが、隊長、副長、デンリーダーのお陰で、**男性にも心を開いたり、話すようになりました。** 隊のスカウトのおかげで、**男の子とも遊べるようになりました。**

母子家庭の息子が初めてスカウトに参加した際、**男くさい！と感動**していました。

トモスス利用者のエピソード



海外派遣に行かせてくれて、本当にありがとう

上の子も現在ベンチャーで、去年海外派遣に行きました。申し込んだ時はボーイスカウトも辞めたいと言っていて、海外派遣も興味ないと言っていましたが、**今まで続けてきたんだから辞めるにしても海外派遣は挑戦してみよう！**と半ば無理矢理申込みました。半年間の準備期間に何度か派遣メンバーで合同活動するうちだんだん意識が芽生え楽しみにになり、出発当日の空港では自ら**「海外派遣に行かせてくれて本当にありがとう。めちゃくちゃ楽しみ！」**と言ってきました。

海外派遣がとても素晴らしい経験になり、その後、高校の交換留学も希望し更に素晴らしい経験になったお陰で希望の進路も決まり、あんなに辞めたいと言っていたのが嘘のように今はベンチャーもあと1年だから最後まで続けると言っています。

まとめ



- 子どもをスカウト活動に参加させているひとり親家庭は、平均的な子育て家庭・ひとり親家庭と比べ、学校外の体験活動の機会が少ない。スカウト活動が唯一の体験機会であるというひとり親家庭が多い。
- トモスス利用者のスカウト活動への年間支出額は5.5万円。制服代や長期キャンプの参加費等、追加発生する費用がとくに負担になる。今後は、トモスス助成等の支援制度を一層拡充していく必要がある。
- 団の人間関係は、ひとり親家庭にとって非常に大きな存在である。入団のきっかけとしても、またひとり親の普段の相談相手としても、大きな位置を占める。
- スカウト活動はひとり親のニーズと合致し、とくに仲間との活動や成長にプラスになる活動が期待されている。長く活動を続けさせたい、周りに勧めたいという声も多かった。

